



平成22年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 三宅 鐵宏
(コード番号 2372 東証第一部)
問 合 せ 先
役 職 取締役 経理本部担当
氏 名 小島 修一
電 話 03-5436-3148

特別損失の発生および平成22年3月期通期業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、平成22年3月期において特別損失を計上するとともに、平成21年5月13日に公表いたしました平成22年3月期通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の連結業績予想と、本日公表いたしました平成22年3月期業績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(1) 固定資産除却損

当社の連結財務諸表において、子会社が保有する固定資産について、現在使用しておらず、また、将来的に使用する見込みがないと判断をした結果、除却処理し、固定資産除却損として14百万円を特別損失に計上いたします。

項目	連結（百万円）	個別（百万円）
固定資産除却損	14	—

(2) 減損損失

当社の連結財務諸表において、当社の連結子会社が保有する固定資産の将来の回収可能性を検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づきその一部を減損処理し、減損損失として57百万円を特別損失に計上いたします。

項目	連結（百万円）	個別（百万円）
減損損失	57	—

(3) 貸倒引当金繰入額

当社の連結財務諸表において、当社および当社の連結子会社における貸付金に関して、与信に関わるリスク管理をより厳格に適用した結果、貸倒引当金繰入額121百万円を特別損失として計上いたします。

項目	連結（百万円）	個別（百万円）
貸倒引当金繰入額	121	1,205

(4) 和解金

当社の連結財務諸表において、当社の連結子会社における訴訟案件について和解が成立したため、その和解金72百万円を特別損失として計上いたします。

項目	連結（百万円）	個別（百万円）
和解金	72	—

(5) 訴訟関連損失

当社の連結財務諸表において、当社及び当社の連結子会社における訴訟案件費用92百万円を訴訟関連損失として、特別損失に計上いたします。

項目	連結（百万円）	個別（百万円）
訴訟関連損失	92	3

(6) 訂正報告書作成に伴う費用

当社の連結財務諸表において、過年度の決算における会計について訂正を要すると判断するに至り、平成17年3月期から平成22年3月期第2四半期までに提出した有価証券報告書、半期報告書、四半期報告書の訂正報告書等を開示したため、訂正報告書作成に伴う費用190百万円を特別損失として計上いたします。

項目	連結 (百万円)	個別 (百万円)
訂正報告書作成に伴う費用	190	190

また、上記の影響により、平成22年3月期通期連結業績と予想数値との差異は以下のとおりです。

2. 平成22年3月期 通期連結業績予想数値との差異 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	14,900	210	160	△100	△106円94銭
今回実績 (B)	13,815	△162	△225	△731	△782円16銭
増減額 (B-A)	△1,085	△372	△385	△631	—
増減率 (%)	△7.3%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	14,478	175	182	△10,559	△11,291円36銭

3. 差異の理由

平成22年3月期の実績値は、経済環境の低迷が、当社グループの事業領域であるヘルスケア分野の実態経済にも影響を及ぼし、売上高は予想を下回りました。また、グループ全体で総力を挙げて経費削減に取り組み、利益の確保に注力したものの、主力事業であるSMO事業において、大型案件の開始時期がずれ込んだことに加え、第I相試験が主要施設の変更により受託活動を一時的に休止せざるを得なかったことから、営業利益、経常利益につきましても、予想を下回りました。また、当期純損失につきましては、前述の特別損失の発生を勘察した結果、731百万円となりました。よって、通期業績予想の数値に対して上記のとおり差異が生じました。

以上